

素描く和色が誘う新緑の風景



若菜色 わかさいろ
 若芽色 わかめいろ
 黄緑 きみじり
 若草色 わかくさいろ
 常盤緑 とこわかどり
 千歳緑 ちとせみどり

天色 あまいろ

空色 そらいろ

萌黄 もえぎ
 鶺鴒黄 ひわもえぎ
 淡萌黄 うすもえぎ
 山葵色 わさびいろ
 若緑 わかみどり
 花萌葱 はなもえぎ
 青丹 あおに



下宮地神部神社のお神輿

若苗色 わかなえいろ
 苗色 なえいろ
 黄金色 こがねいろ
 黄赤 きあか



蒸栗色 むしぐりいろ

やこめ(焼米)

わかばいろ
 若景色 わかばいろ
 草色 くさいろ
 木賊色 とくさいろ

田植え中の水田を散策していると、農家の方からやこめ(焼米)をいただきました。やこめはこの地域の郷土料理です。もともとは苗を育てる時期に田んぼの水口に焼いた米を供えるという田の神様への豊穰祈願であったと言われます。地元では、もち米に炒った大豆を混ぜて蒸したものを「やこめ」と呼び、水口に捧げられました。現在、儀礼として行っているところはほとんどないようですが、やこめは今でもこの時期に作られ食されています。近年では各家庭でアレンジが加えられ、薄っすらと蒸栗色に染まったもち米に、醤油で煮た栗色の椎茸や黄赤の人参、花葉色の大豆が顔を出しているなど様々です。これぞ旬の味覚。景色もいいですが、やはり味覚にはかないません。

花や木々、草、作物、動物、昆虫、鉱物、そして人々の営み。色はその土地の人々の生を映し出します。特にこの季節は、生命の息吹を感じる色があふれています。見慣れた風景も和の色でスケッチしてみると、違った風景が見えてくるはずです。

桜が舞い散り、木々が芽吹き始めた4月から5月。風薫る季節は、風景の中に豊かな和の色があふれます。桜が散り始める頃、西の山々は一斉に芽吹き始め、緑の色が日に日に濃く、深くなってゆきます。標高の高い山頂には淡く明るい若芽色や若菜色が映え、明るい黄緑の若草色、やや黄味がかる淡萌黄や鶺鴒黄、萌黄色が下へと広がっていきます。さらに山裾にいくにつれて、深みのある草色や木賊色、やや青みががる青丹、やわらかい黄緑の若葉色や山葵色、緑の深い常盤緑や千歳緑などが濃くなっていきます。無数の緑がモザイク画のように点在し調和し、そして毎日変化する。春から初夏ならではの山の景観です。

山々が色とりどりの緑の衣をまとう少し前、冬に山へこもり山の神となった神様が、再び里に降りてきて田の神様になると古くから信じられてきました。この神様が神輿に乗り里へお移りになるのが西御幸です。現在には上宮地から下宮地までは車でお神輿が運ばれていますが、本来は山の神様が冬を過ごす上宮地八幡神社から田の神となる下宮地神部神社までお神輿がかつがれました。お神輿には黄金色と朱色に輝く波の軌跡が描かれ、威勢のいい掛け声とともに激しく揺られて進んでいきます。

西御幸が終わると、いよいよ田植えの季節がやってきます。水が張られた田んぼは、天色の空を映しだし、苗色や若苗色の瑞々しい苗を育てゆくのです。